

第1回 第3次江田島市総合計画審議会 議事録

■日時・場所

日時： 令和5年8月18日（金） 10:00～11:30

場所： 大柿市民センター 会議室1～3

■次第

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 委員自己紹介
4. 会長・副会長の選出について
5. 会長・副会長挨拶
6. 諮問
7. 協議事項
第3次江田島市総合計画策定について
8. 閉会

■会議風景



■参加者

* 敬称略・順不同

属性	氏名	所属	出席
委員	藤谷 吉秀	広島県地域政策局中山間地域振興課 課長	欠席
	平野 誠治	広島県地域政策局中山間地域振興課 参事（上記代理出席）	出席
委員	永井 匠	広島県 DX 推進チーム 政策監	欠席
	森田谷 智昭	広島県 DX 推進チーム 参事（上記代理出席）	出席
委員	前川 昌士	広島県健康福祉局医療介護基盤課 担当監	欠席
	西山 浩士	広島県健康福祉局医療介護基盤課 主査（上記代理出席）	出席
委員	長坂 睦子	江田島市教育委員会 教育委員	欠席
委員	濱谷 一真	江田島市自治会連合会 会長	出席
委員	高先 泰弘	江田島市 PTA 連合会 副会長	出席
委員	森下 恵子	認定こども園保護者会 代表	欠席
委員	森藤 清彦	安芸地区医師会江田島ブロック ブロック長	出席
副会長	堂野崎 平	江田島市社会福祉協議会 会長	出席
委員	小原 正清	江田島市農業委員会 会長	出席
委員	吉岡 憲伸	江田島漁業振興協議会 監事	出席
委員	泊野 秀三	江田島市商工会 事務局長	出席
委員	中野 伸一	江田島市観光協会 事務局長	出席
委員	今井 雅敏	一般社団法人広島県観光連盟 経営企画・マーケティング事業部長	出席
委員	山縣 透	公益財団法人ひろしま国際センター 交流部長（兼）総務課長	出席
会長	上水流 久彦	県立広島大学 地域基盤研究機構長 教授	出席
委員	塚井 誠人	広島大学 大学院先進理工系科学研究科 社会基盤環境工学プログラム 准教授	出席
—	明岳 周作	江田島市長	出席
事務局	畑河内 真	江田島市 企画部 部長	出席
事務局	飴野 秀樹	江田島市 企画部 企画振興課 課長	出席
事務局	重田あゆみ	江田島市 企画部 企画振興課 課長補佐	出席
事務局	吉田 大輔	江田島市 企画部 企画振興課 企画係主任	出席
事務局	八木 周吾	ランドブレイン株式会社 広島事務所 所長	出席
事務局	駒井 達也	ランドブレイン株式会社 広島事務所 所長補佐	出席

■記録

1. 開会

－ 事務局より開会あいさつ（記録省略） －

2. 市長挨拶

市

長

本日は第3次総合計画審議会への出席、そして委員就任の快諾に感謝します。平成16年の平成の大合併により、江田島町・能美町・沖美町・大柿町の4町が合併し、新生江田島市となって19年目を迎えました。これまで2度総合計画を作成し、第2次総合計画は令和6年度で10年の期限を迎えます。新たに次の10年を見据えた江田島市の将来像を作っていくことが必要です。令和5・6年度の2年間で基本構想・基本計画を、各界のリーダーの方々にご意見を賜り総合計画を策定させて頂きたいと考えています。

本日も、各リーダーの方々にご出席頂いていますが、今後10年を見据えた計画づくりをよろしくお願ひします。

江田島市は、戦後の昭和22年に初めて臨時の国勢調査があります。その当時は人口6万3,560人でありましたが、今現在は2万1,000人となっています。戦後、76年間に渡って人口減少が続いており、人口減少・少子高齢化のトップランナーです。少し大げさに言えば、日本の50年先の人口構成を今の江田島市が体現しています。私は日頃、職員に「将来の日本を明るくするには、江田島市が元気でなければならない。そういうまちづくりをする。」と言っています。

広島県に尽力を頂き、コロナ禍で初めて3社のIT企業に江田島市へ進出をして頂きました。そして、最近では移住者も増えてきており、関西から定年退職をした方が夢を叶え江田島市で飲食店を開店するなど見受けられます。他に、市内の各事業者も新たな事業に取り組んで頂いています。最近では、「夢を叶える場所は江田島市ではないか」という声も聞くようになってきました。人口減少・少子高齢化の江田島市ではあるが、居住者・来訪者が元気でワクワクする江田島市を目指していきたいです。

その指針となる10年先の江田島市総合計画を、皆様の力添えを頂き市民一人一人が前向きになり、江田島市に住んで良かったと言えるような計画作りを進めて参りたいと考えています。

3. 委員自己紹介

平野委員

広島県地域政策局中山間地域振興課・課長の藤谷の代理で出席させて頂いています。能美町中町出身です。江田島市の将来を自分事とし、先ほど市長が申された事をしっかりと受け止め、考えて参りたいです。

森田谷委員

広島県DX推進チームの永井の代理で出席させて頂いています。デジタル技術の活用は今後10年を見据えた中でも避けられない部分であり、そういった観点で広島県でも取り組んでいます。その中から出てきた課題等も踏まえ、より良い計画になるよう意見を述べられたらと思います。

西山委員	広島県健康福祉局医療介護基盤課の前川の代理で出席させて頂いています。医療と介護を一体的に推進している課であり、社会医療法人や介護を担っていく高齢者福祉施設の指導監督や設置に関する認可等を行う事務をやっていきます。今後、江田島市とも連携を深めながら事務を進めていきたいと考えています。
濱谷委員	沖美町三高出身で江田島市自治会連合会の会長を務めています。
高先委員	江田島市 PTA 連合会 副会長を務めています。大柿町在住で、大柿中学校と小学校の保護者として本日は参加させて頂きます。
森藤委員	切串で有床診療所をしています。こういった会合には初参加ですが、我々の団体名は安芸地区医師会江田島ブロックで、江田島市には医師会はないです。元々は安芸郡と佐伯郡だった事もあり、江田島市の中でも安芸地区医師会と佐伯地区医師会の2つに分かれています。その辺りで、行政としてもやり取りが難しい部分もあると思われまます。そういった事も含め、今後よろしくお願ひします。
堂野崎委員	江田島市社会福祉協議会の会長を務めています。入職をしてから 27 年間ずっと福祉畑で来ました。生まれも育ちも江田島市能美町なので、江田島市の事はある程度は理解していると思ひます。本審議会でしっかりと意見を出したいと思ひます。
小原委員	江田島市農業委員会の会長を務めています。定年し今年で 8 年目、本総合計画の策定にも陰ながら携わった事があり、そういった経験も活かしたいです。農地について、荒廃や担い手不足が課題となっており、その辺りの施策が少しでも盛り込まれ、担い手の維持に繋がればと考えています。
吉岡委員	江田島市漁業振興協議会の監事を務めています。江田島市には 11 漁協ありますが、その中の 1 つである鹿川漁業協同組合に所属しています。本日は漁業者代表として参加させて頂きました。
泊野委員	江田島市商工会の事務局長を務めています。初めてこういった委員をさせて頂きます。
中野委員	江田島市観光協会の事務局長を務めています。4 月より民間会社から出向で参りました。先程申された元気な江田島市の実現には、楽しめる江田島市を目指す事が地域活性化に繋がると思ひます。少しでも貢献出来ればと思ひます。
今井委員	一般社団法人広島県観光連盟の経営企画・マーケティング事業部長を務めています。観光の観点から、より良い総合計画作りに貢献したいです。
山縣委員	公益財団法人ひろしま国際センターの交流部長(兼)総務課長を務めています。各自治体にある国際交流協会の広島県版という事で私共は国際交流センターを名乗っています。国際交流協会と言うと、昔は国際交流の部分を支援していましたが、現在は多文化共生という在住外国人の為の支援をする事が非常に大きな仕事となっています。外国人の相談窓口をしている為、そういった部分で意見やヒントを伝えられたらと思ひます。
上水流委員	県立広島大学の地域基盤研究機構長で教授を務めています。本学と江田島市は包括協定を結んでおり、様々な形で連携をしています。そういった縁でこの度の委員

	を賜りました。
塚井委員	広島大学で大学院先進理工系科学研究科社会基盤環境工学プログラムの準教授を務めています。土木工学科で、都市計画・交通計画を専門にしており、出身は北広島町。先日も、北広島町大朝地区で創立150年の小学校が創立を祝いつつも、人口減少で統廃合となりました。そういった事を若干ですが現場で見えてきた経験があります。
事務局 (畑河内)	企画部長をしています。本総合計画では10年後の江田島市がどういうふうになっているか、その為にはどういった事に取り組んでいくか、という事をしっかりと描いていきたいと思っています。皆様の貴重なご意見を頂くのが必要だと思っていますので、お力添えを頂きたいです。
事務局 (飴野)	4月から課長を務めています。総合計画を策定する中で、皆様の様々な専門の知見をお借りしながら良いものを策定したいと考えています。
事務局 (重田)	課長補佐をしています。本日出席していないが、係長の花野も担当者なので、よろしくをお願いします。
事務局 (吉田)	これからの2年間、皆様の専門的な知見から貴重なご意見を頂きたいと考えています。
事務局 (コンサル)	本業務の策定支援委託を受けているランドブレイン株式会社の八木です。主なところだと、近隣では岩国市の総合計画などの策定実績も有しています。よろしくをお願いします。
事務局 (コンサル)	ランドブレイン株式会社の駒井です。2年間よろしくをお願いします。

4. 会長・副会長の選出について

事務局	審議会会長、副会長の選任に入ります。審議会の会長、副会長については、江田島市審議会条例第6条の規定により、委員の互選により選任することとしています。選任について、ご意見等のある方はいますか。委員の皆様の差し支えがないようであれば、事務局から推薦させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。 (異議なし)
事務局	それでは会長に、学識経験者として委員をお願いしている県立広島大学の上水流委員、副会長には、江田島市の関係団体として委員をお願いしている江田島市社会福祉協議会の堂野崎委員を推薦したいと思いますがいかがでしょうか。 (異議なし)
事務局	異議がないようなので、上水流委員を会長、堂野崎委員を副会長とします。会長、副会長から挨拶をお願いします。

5. 会長・副会長挨拶

会長	この度、委員長を拝命しました。よろしくをお願いします。今朝、呉から江田島へドライブをしていて、景色を見ていると豊かな場所でワクワクし、江田島市の将来
----	--

性を感じました。今後は、様々な人がここに移り住むという事になってくるので、皆が共に住み良いまちづくり計画が重要だと思われます。住みやすいまちづくりを目指し、皆様からご意見を頂戴出来ればと思ひます。

副 会 長

副会長をご指名頂きました。福祉関係に長く勤めていると申しましたが、勤続年数が長いと充て職が非常に多いです。地域福祉計画や高齢者計画や障害者計画等も今年度新たに策定していますが、その委員として出席させて頂いています。その中で、いつも上位計画として総合計画があるということを言われます。本計画は、市にとって重要な計画だと認識しています。先程も市長が「元気なまちづくり」と申されましたが、「社会福祉協議会の元気がない場所は、町自体も元気がない。」という話をしています。福祉に限らず、様々な事を協力出来ればと職員には言っています。私自身も意見を出しながら、何処にもあるような計画ではなく、江田島市ならではの 10 年間先を見据えた計画作りが出来ると良いと思ひ、しっかりと意見を出したいと思ひます。

6. 諮問

－ 市長から諮問が行われた（記録省略） －

7. 協議事項

第 3 次江田島市総合計画策定について

－ 事務局より説明（記録省略） －

会 長

委員の皆様からご意見、ご質問はありますか。

委 員

3 頁の成果検証の検討についてですが、書き過ぎている気がします。「見える化」をするという目的であれば結構ですが、総合計画というものは基本的にはコンセプトをまとめておき、10 年間で施策を展開する根元になるような現状の問題認識と発展の問題性を書いていくものだと認識しています。後半は一貫した形で作られていると感じますが、他方で実施計画の所では健康づくり講習会の参加者数等を具体的に挙げています。

総合計画というものはそれほどエビデンスを求め検証していくようにはならないと思ひますが、数字を合わせに行く時間を作るようになるのであれば意味はあまりなく、総合計画はそういった類のものではないと思ひます。そういったものは、連携する他の計画で KPI として個々で管理するものです。本体の上位計画で書かれてしまうと、縛られてしまう。

そうなると、関連した所でも同じような集計を集める事となり、同じような検証をする事になる。私が一番心配しているのは、職員の業務が過負担になるのではないかという事です。DX で簡素にまとめていくという流れに対し、果たして合致しているのでしょうか。私の認識が古く、総合計画とは個別にきっちりと管理していくのが最新のトレンドという事であればこれでも構わないです。

まとめ方の方向性によりどういう流れになるのか変わってきますが、少なくともこれを見る限りでは忙しそうだというのを見て取れます。これでは、職員が忙殺され大変になるだけではないのでしょうか。

事務局	<p>仰る通りです。本資料の表現としては案という形で提示しています。</p> <p>我々としては、職員のみならず市民に対しても「見える化」をする事で手に取ってもらえるものだと考えています。イメージは持っていますが、一旦は現段階の最終的なゴール指標の部分をどのようにしていくのかを受託業者と話をしています。</p> <p>受託業者ともしっかりと詰めながら、最終的には実施計画で指標数値を取りますが、実施計画の部分もいかにして見えやすくするかは検討します。整理が出来次第、皆さんへ提示します。</p>
事務局	<p>仰る通り、実施計画をどこまで書くかという事だと思います。</p> <p>冊子は、基本構想と計画までです。実施計画は、予算を管理するためのものです。第二次実施計画は、別冊子で取り纏めています。</p> <p>実施計画でここまで取り纏めたら個別の計画は不要だという議論になるので、総合計画として方向性付けを出す程度の内容に落ち着けます。基本計画・実施計画の策定は来年度となるので、その辺りで色々ご意見賜りたいです。</p>
委員	<p>様々なまちづくりをする中で、担い手・後継者不足が深刻な課題となっています。そこを育てていくという事を計画にしっかりと反映する事が重要です。</p> <p>様々な計画をしても、担い手・後継者がいなければ企画倒れになる。「まちづくりを自分事として捉える」と記載がありますが、参加してくれと行政・自治会・まちづくり協議会が言っても担い手・後継者がいなければそうはならない。現在やっている方が高齢化して辞める時に跡取りがいなければ、後が続かない。</p> <p>そういった事が、今後の10年で深刻になる一方です。そういった事を、本施策にしっかりと反映させ位置付けていく事が非常に重要です。</p>
事務局	<p>担い手不足・後継者不足は間違いなくあります。</p> <p>資料5頁、一つの例として高校生向けアンケート「将来どういう活躍をしたいか」という設問がありますが、若い方々からの意見も頂きながら計画策定に取り組んでいくという事もあります。</p> <p>先程申されたように、担い手・後継者不足を含め今後の計画策定に何らかの反映をさせて頂きたいと考えています。</p>
事務局	<p>人口減少は進んでおり、江田島市のボリュームゾーンは75歳から85歳です。</p> <p>この事からみても、今後も暫くは人口減少が続きます。そうした中で、担い手不足の問題は分野問わず出てきます。人材育成は重要ですが、人間ではなくAI・DX・ITに置き換えていく事も10年後を見据えた時に可能性としてあります。</p> <p>今後、審議する中でそうした姿や必要な取り組みを入れ込んでいけたらと思います。</p>
委員	<p>8頁、令和5年度市民意識醸成業務について、「ローカルアイデンティティを落とし込んだコンセプトブックを作成する」とありますが、江田島市の「ローカルアイデンティティ」とはどのようなものと考えていますか。</p>
事務局	<p>「ローカルアイデンティティ」とは、地域全体の特性や個性といった意味です。資料ではコンセプトブックとして、13頁から14頁に示しています。</p> <p>イメージとして、江田島市には市民憲章というものがあります。今回、11頁から</p>

12 頁にかけて「市民参画による意見交換会 江田島未来ビジョンワークショップ」という言葉で表現させて頂いています。その中で、市民参画の意見を聞きながら、コンセプトブックに関するビジョンや実現に向けたアクションを含め、令和 5 年から令和 6 年にかけて 2 回程度予定しています。その話の中で、意見を頂きながら整理をします。それがコンセプトに繋がり、意識の醸成を図っていただける冊子になるというイメージです。

今後、市民の意見を聞きながら作っていく事としています。コンセプトブックには多くの言葉が出ており、第三次総合計画の冊子はどのようになるのかと思う方もいるでしょうが、総合計画の本編と概要版とは別にコンセプトブックを作成します。

事務局

「ローカルアイデンティティ」は市民意向から出てきます。

第二次総合計画のアンケートでは、「江田島市の自慢できるものは何ですか」という質問をしており、市民の方々から多かった返答として「島の風景」「牡蠣をはじめとした海産物」「暮らしやすい気候風土」等、そういったものが誇れるのだというご意見を頂いています。

今回色々なご意見を頂く過程で、誇りにしたい部分や 10 年後も大切にしたい部分等が意見として出てくると思います。それを取り纏めていく中で、大方のイメージがにじみ出てくるかと思っています。

委員

総合計画とは、誰の為に作るのですか。行政の為ではなく市民の為であり市民目線に立ったものを作る必要があると考えます。

先ほどの話にあったように、江田島市は人口比としては年配者が多い。年配者が、横文字を見て理解出来るのでしょうか。

あまりにも横文字が多く理解し難く伝わり辛い。分かりやすく、日本語を使った計画を出して頂きたいです。

事務局

これまでも説明させて頂いた通り、市民の皆さんに手に取って頂けるよう読みやすい形を考えています。構成・表現は考慮しながら作成させて頂きます。

委員

9 頁、図に現計画と新計画があります。「市民に読んでもらい、理解や共感を促す市民目線の分かりやすい計画としていく為に、現計画の 4 階層の施策体系から 2 階層のシンプルな構成に変更」との表記があります。

今回、市民の方に理解を頂き一体となってまちづくりを進めていこうという事で書いてあると思いますが、「2 階層のシンプルな構成に変更し市民に分かりやすくなる」という部分の意味が分からなかったのですがどういう意味ですか。

事務局

8 頁、施策内容として企業の誘致の推進の記載がありますが、その更に下に基本施策等が並んでいるのが現在の総合計画です。要するに、紙面を圧縮するという事です。

現在は、部門・分野・基本施策となっており、基本計画の中身が煩雑になっています。なるべく、分野・基本施策を一体にし、施策内容を 8 頁の右側程度に圧縮する形でシンプルに見せる事が趣旨です。

委員

冊子作成時の、表現の在り方やデザインの在り方に関わってくるという理解でよ

事 務 局 員	ろしいですか。
	その通りです。
委 員	2点お願いしたい事があります。
	1点目、今年度実施の中で最初に指摘もあったが、これまでの総合計画を検証していくという事は重要です。目標を立てたが出来なかった所は多いと思います。人口減少に関しても、先ほど市長の話にもありましたが2万1千人という事で、想定されているよりも早い段階で減少していると思われます。
	そういった事を踏まえると、目標未達という所があるのだと思っています。失敗と実績というものがありますが、なぜ目標が達成出来なかったのかという失敗から学ぶ事があると思います。そこをしっかりと検証しなければ、新しい計画を立てても同じような問題を抱えていると達成できないと思われます。
	なぜ達成出来なかったのかという視点から、徹底的に分析し問題点を出した上で、新しい計画を立てていく事が非常に重要だと思うので、そこをお願いしたいです。
	2点目、サイレントマジョリティーという言葉がありますが、声を出さない多くの方がいらっしゃいます。冒頭に、誰にとっても住みやすい街が必要ではないかという事を申し上げました。どこもそうだと思いますが、声の大きい人や立場の大きい人の意見が反映されやすいという事が事実としてあります。日本の土壌なのかもしれませんが、意見を出さない方や黙っている方も多くいます。
	そういった部分を、どれだけしっかりと取り上げられるかで、住みやすい街づくりになっていくのではないかと思います。別の会議に出た際に、若い女性が出ていくリスクが問題としてありました。先ほどの担い手づくりという点で非常に重要な課題であり、住みやすいと感じ残ってもらえるかが大事です。サイレントマジョリティーやサイレントマイノリティーなのかもしれませんが、声を上げない方にどうやって切り込みそこから話を聞いて頂くかがヒアリングやアンケート調査で重要だと思います。
我々もアンケート調査をしますが、アンケートを父親が代わりに書いてしまうといった事もあり、結果的には回答の多くは男性が回答しているというパターンもありました。そういった部分にも注意をしなければならないと思います。	
何が失敗したかを考察した際に、声なき声や声なき考え、出さなかった人達の意見をうまく救えなかった事が要因でもあるのではないのでしょうか。是非、そういった所も意識し調べて頂ければ私としてはありがたいと思います。	
事 務 局	1点目の検証について、先日江田島市職員を対象に、1課につき2名程度ずつ出席して頂き施策の評価シート説明会をさせて頂きました。
	その中で、現計画の振り返りを行い施策の進捗状況や継続・終了・変更等の今後の方向性、これまでも計画に基づいた事業を行ってきています。ですが、コロナ禍等世の中の変化もあります。そこを踏まえ、新しく行ってきた事業があるのか若しくは今後もそれがいいのか、更には市民満足度調査も踏まえた上で、それぞれの計画した施策がどうであったかの達成状況を集計・記載をお願いしている所です。

2点目、我々もサイレントマジョリティーという声が出ない方々の意見を出来る限りは取るという事は頭の中に入っています。WEB等を活用しつつ、今までにないやり方で取っていかうと思っています。これまでも、学生等が研修をやってきた中でそういった意見も頂いています。

そういったものも参考にしつつ、委託事業者と行っています。意見を出来る限り取れる方法で実施していかうと考えています。

委員

私の経験上は、総合計画は「計画案の為の計画案」という状況になりがちだと思っています。

こう思うのは、市民が知らない、中身を知らないという事が実情だからです。

総花的な計画であれば、同じ事の繰り返しになるのではないのでしょうか。この島が10年後どこへ向かうのか、この資料にある「実り多き島 江田島」という抽象的なものではなく、分かりやすい目標を示して頂きたいです。

例として、「富士山の頂上に立つ」という目標を立てたとして、その目標に対しどの登山ルートを行くのかの「提案の提案」をする。若年者から年配者まで色々な人がいるので、その人達に最適であるかハードルは何か等、クリアしていくのが各持ち場の計画だと考えます。

総合計画とは、総花的なものではなく簡単で誰でも分かるものにした上で、付随する計画は色々な部署の計画が出てくる形にすれば多くの方々は分かりやすいのではないかと思います。今まで通りの計画では無理だろうと私は考えます。

もう1点、私が自治会をしている地区で盆踊りをした際の話ですが、そこでも担い手がないという問題がありましたが、声を掛ければやってくれる方がいるという気付きがありました。「コミュニティの中の会話が足りていない」という私の反省点が分かり、声を掛けられる事を待っている若者もいるという事に気付かされました。

今回の計画にしても、様々な計画を立案し示しても郵送するだけでは相手の頭に入らず、聞いても知らないと言われます。何故ならば、年配者が多いからです。手紙が来ても読む気がしない、というのが現状です。一軒一軒の家を訪ね、ここはこういう事なのだという事をするとちゃんと返答が帰ってくるというのが実情です。

そこまで労力はかけられないのが現実ですが、市民に沿った計画にするのは役場ではなく市民です。

そう考えると、そういったやり方を地道に進めていくなど、今まで通りではないやり方を少し考える必要があるのではないのでしょうか。

事務局

1点目の総合計画を策定しても、見た事はなく知らないという市民の方が思われるイメージがあると思われまます。

そういった中で、我々は計画の中で意識の醸成業務として先ほど説明した様に、意識醸成に向かう為にも皆様に意見をもらい、将来の方向性等を表現出来る様なコンセプトブックを作成し配布する事を考えています。資料10頁にある通り、総合計画が完成した際には関係者やパネラー等に来てもらい、趣旨や目指すべきビジョン等のトークセッションをしながらの「総合計画(コンセプトブック)のお披露目会」を計画しています。

委員 | そういった今までにないやり方等を踏まえて計画をしています。

委員 | 基本構想の議論を今後もここで行っていきます。マスタープランとしての性格と市民の方が分かりやすいイメージが持てる部分の兼ね合いだと思うので、議論していく中で具体的に検討していったら良いのではと思います。市民に分け入ってというのはその通りだと思います。

委員 | そういった事も、今後の策定の中でお願いしていったらと思います。

8. 閉会

事務局 | 次回の第2回総合計画審議会について、10月下旬を予定しています。内容は、「将来の状況と予測」「課題と確認」「基本構成案の骨子」についてご意見を頂戴できればと思います。

事務局 | 次回以降の日時は、また事務局からご連絡させていただきます。ご出席をよろしくお願ひします。

以上